

第3学年 国語科学習指導案

平成30年2月7日(水) 5校時

3年2組 24名(男子12名 女子12名)

授業者 吉門 修平

- 1 **単元名** 人物なりきり音読発表！
教材名 「モチモチの木」(東京書籍3年下)

2 単元の目標

○音読発表をすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとすることができる。

【関心・意欲・態度】

○場面の様子がよく分かるように音読することができる。

【C 読むこと ア】

○叙述を基に、人物の性格や気持ちを想像しながら読むことができる。

【C 読むこと ウ】

○自分が考える人物像を音読で表現したり、感想を伝え合ったりして、それぞれの感じ方に違いがあることに気づくことができる。

【C 読むこと オ】

○長い間使われてきた慣用句の使い方を知り、使うことができる。

【言(1) ア(イ)】

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること」、「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」と「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を取り上げて指導する。

②つきたい力へ向けての言語活動とその特徴

本単元では、「C 読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を具体化した『人物らしさが伝わる音読発表をしよう』という言語活動を位置付ける。

ここで取上げる言語活動『人物らしさが伝わる音読発表をしよう』は、人物の行動や会話から人物像を想像し、その人物らしさが伝わるように音読発表をするというものである。音読で人物像を表現するためには、人物の行動や会話文からその時々気持ちを想像しながら読むことが必要になってくる。また、語り手が人物の性格や気持ちを表現している部分も多く、地の文を読む際にも登場人物らしさが伝わるように音読することが大切である。本教材は、中心人物豆太の成長が描かれており、臆病な豆太が、じさまの病気に際し、一人で真夜中に医者様を呼びに行く。そこで、勇気のある子どもしか見られない山の神様のお祭りを見るという物語である。この豆太の行動や気持ちの変化は、語り手による温かい民話調の言葉で語りかけるように表現されている。音読発表を意識した学びが「叙述を基に、人物の性格や気持ちを想像しながら読むことができる。」

(C 読むこと ウ)と「自分が考える人物像を表現したり感想を伝え合ったりして、それぞれの感じ方に違いがあることに気付くことができる。」(C 読むこと オ)の実現に適していると思われる。

(2) 児童観

児童は、4月の「すいせんのラッパ」で場面の様子や登場人物の気持ちが伝わるように音読す

ることを学習し、音読発表会では、地の文と会話文を意識しながら音読を行った。10月の「サーカスのライオン」では、中心となる人物の気持ちの変化を読み取り、「ぐぐっとリーフレット」にまとめ、読んで考えたことを紹介し合う学習を行った。12月の「はりねずみと金貨」では、物語の出来事を捉え、大事な言葉に注意してあらすじをまとめ、本の紹介カードを書く学習を行った。これまでの物語の読みの学習から、児童が叙述を基に人物の性格や気持ちを想像する力には個人差がある。同様に、音読にも個人差が見られ、登場人物の性格や気持ちに合った、声の大きさや抑揚で読むことのできる児童がいる一方で、人物の違いや気持ちを読み取った音読ができていない児童もいる。標準学力調査の結果を見ると、物語の内容を読み取ることに於いて、場面の様子を読み取ること、目的や必要に応じて、登場人物の気持ちと場面の様子を読み取ることについては目標値を上回っている。しかし、個人の結果を見ると、目標値を下回っている児童が6人おり、場面による登場人物の気持ちを読み取ることについては弱さがある。

(3) 指導観

第一次では、まず既習の物語文を思い出し、本単元への興味を持たせ、「中心人物」という言葉を確認する。そして、「人物カード」を見せ、そこに書かれた中心人物の人物らしさが伝わるように教師がモデルとなる音読を聞かせる。単元のゴールイメージを持たせ、付けたい力を確かめた後、どんな学習をしていけば良いか確認する。並行読書の中からお気に入りの物語を選び、『その人物らしさが伝わる音読発表をしよう』という学習のめあてをつかませる。「モチモチの木」の作者である斎藤隆介の作品（「花さき山」「八郎」「半日村」「三コ」「ひばりの矢」「かみなりむすめ」「ふき」）が他にもあることを伝え、並行読書として取り組ませる。

第二次では、題名にもなっている「モチモチの木」とは豆太にとってどんな木なのか想像し、豆太の行動、気持ちの変化に重要な関係のある木について叙述を基に想像しながら読み進めさせる。そして、登場人物の設定や状況を捉え、中心人物豆太はどんな人物なのか、気持ちはどう変化するのかを、叙述を基に考えさせる。豆太がどんな人物か、人物像の表現にはそれぞれ違いがあり、根拠とした叙述も違いがあると思われる。それらを全体交流で話し合い、行動や会話から感じ取れる豆太らしさを全体で共有していく。豆太の人物像を全体で捉えた後、自分の伝えたい豆太を決め、その豆太らしさが伝わるような音読の仕方を考える。さらに、グループでの対話を通して、どのように音読をしたら伝えたい豆太を表現できるか読み方の工夫を話し合いながら音読に取り組ませていく。

第三次では、これまで並行読書で読み進めてきた本の中からグループでお気に入りの物語を一つ選び、「モチモチの木」の学びを活かして、叙述を基に中心人物の人物像をとらえ、「人物カード」にまとめる。そして、その人物らしさが表れる読みにするため、会話文や地の文はどのように音読すればよいか、グループで話し合いながら音読発表へ向かう。音読発表では、自分の選んだ人物らしさが伝わるように工夫した音読を目指す。これまでの学びとグループでの交流を活かして、感想を伝えあったり、感じ方には人それぞれ違いがあることにも気付かせたい。

以前の学力テストでも、物語の中の会話をどのように音読すれば良いか問われている問題が出題されていた。そのような問題にもつながる学習であることを意識して指導していきたい。また、この単元では、どんな人物かを考えるために、人物の行動や会話、性格を表す言葉などに気をつけて読んでいくことが大切である。そのために、人物像を表すために必要な「人物の性格を表す言葉」を集めさせ、教室に掲示しておく。語彙を豊かにすることで、物語を読んでいく上でさまざまな人物像を捉えることにつなげ、深い学びへ向かわせたい。

4 単元構想図

身に付けさせたい資質・能力 << C 読むこと >>

〈構造と内容の把握〉イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

〈共有〉カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方の違いがあることに気付くこと。

付けたい力に向けた言語活動

行動、会話を手がかりに人物像を考え、その人物らしさが表れるように音読する。

児童の実態

○朝の会や家庭学習での練習により、すらすら音読できる児童は多いが、登場人物の人物像を想像しながら読んだり、人物になりきって読んだりすることには課題がある。

単元の評価規準

《国語への関心・意欲・態度》

① 音読発表をすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】

《読む能力》

① 場面の様子がよく分かるように音読している。【C(1)ア】

② 登場人物の性格や気持ちの変化などを叙述を基に想像して読んでいる。【C(1)ウ】

③ 自分が考える人物像を音読で表現したり、感想を伝え合ったりして、それぞれの感じ方に違いがあることに気づいている。

【C(1)オ】

《言語についての知識・理解・技能》

① 長い間使われてきた慣用句の使い方を知り、使おうとしている。【言(1)ア(イ)】

本単元で児童に付けたい力【現学習指導要領】

○自分が考える人物像を音読で表現したり、感想を伝え合ったりして、それぞれの感じ方に違いがあることに気づく力。【C(1)オ】

学習の流れと評価計画(全12時間)

主体的な学び

○付けたい力を確認し、学習の見通しを持つ。①

1. 音読発表というゴールを確認し、付けたい力を付けるためにどんな学習をするか見通しを持つ。【関①】

対話的な学び

深い学び

○叙述を基に登場人物の人物像を想像しながら読む。⑥

2. 「モチモチの木」はどんな木なのか想像する。

【読②】【言①】

本時

3. 豆太の人物像について考える。【読②】【読③】

4. 豆太の人物像について「人物カード」にまとめ、音読の工夫を考える。【読①】

5. じさまの人物像について考える。【読②】【読③】

6. 7. 登場人物らしさが伝わるように音読する。

【読①】【読③】

対話的な学び

深い学び

○音読発表に向けて、選んだ物語の人物像を、叙述を基に想像しながら読む。⑤

8. 選んだ物語の人物像を叙述を基に考える。【読②】

9. 選んだ物語の人物像を「人物カード」にまとめる。

【読①】【読②】

10. 11. 選んだ物語の登場人物の人物らしさが伝わるように音読する。【読①】【読③】

12. 人物らしさが伝わるような音読発表をし、単元を振り返る。

【読①】【読③】

第一次
①
(導入)

第二次
⑥
(展開)

第三次
⑤
(発展)

並行読書

5. 本時における研究テーマとのかかわり

本時の目標 叙述を基に豆太の性格や気持ちを想像しながら読むことができる。

本時の評価規準

☆叙述を基に、豆太の性格や気持ちを想像しながら読んでいる。

支援

※困っている児童には、挿絵や会話、行動からどんな男の子か尋ね支援する。

主体的な学びにつながる「めあて」と「振り返り」の関連

- ・付きたい力を確認し、その人物らしさを伝える音読をするためには、豆太がどんな人物なのか想像する必要があることを確認し、学習への必要性和意欲を持たせる。
- ・振り返りでは、視点を明確にし、今日の学習から、豆太らしさが伝わるためにはどこをどのように音読したかを書かせる。

深い学びへ向かうための発問・指示の工夫

- ・**発**豆太はどんな男の子だと思いますか。どの言葉からそう考えましたか
- ・豆太の人物像を捉えさせたい所では、切り返しの発問をする。

軸となる言語活動

○豆太がどんな人物なのか、叙述を基に性格や気持ちを想像する。

思考・判断

- ・叙述を基に、場面による豆太の会話や行動から、人物像を考える。

表現

- ・教材文の中のどの叙述から、人物像を想像したのか根拠を明らかにしながら説明する。

対話的な学びを実現するための工夫や手立て

- ・家庭学習では会話や行動を手がかりに、豆太はどんな男の子か考えさせてくる。
- ・問い返しのある学びにする為に、友達の見解に対して、分からない所や、確かめたい点を質問し合うようにさせる。
- ・人物像にせまる会話や行動については、適宜対話を取り入れる。

第二次 2時間目 (3/11)

(1) 目標 叙述を基に豆太の性格や気持ちを想像しながら読むことができる。

(2) 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○) 支援 (※) 評価 (☆)、主な指示指、主な発問発
見 通 す	1 本時の課題をつかむ。 人物らしさが伝わる音読をするために 豆太はどんな男の子かな。 行動や会話を手がかりに考えよう。	○単元のゴールイメージを共有し、目的意識を持たせる。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	2 課題を解決する。 (1) 豆太がどんな人物か予習をもとにノートにまとめさせる。 【個人】 ・臆病な男の子。 ・怖がりな男の子 ・勇気のある男の子 ・弱虫な男の子 (2) 豆太がどんな人物か全体で話し合う。 【全体】 ・医者様を、よばなくちゃ→じさまを助けたいというやさしい男の子 ・昼間、だったら、見てえなあ→夜のことを考えるだけでおしっこをもらしそうな怖がり。 ・…それじゃあおらは、とってもだめだ…。 →勇気のある子どもしか山の神様のお祭りを見られないから弱気になっている。	○家庭学習で線を引いてきたところを確認させる。 ※困っている児童には、挿絵や会話、行動からどんな男の子か尋ね、掲示している「性格を表す言葉」を参考にさせて支援する。 発豆太はどんな男の子だと思いますか。どの言葉からそう考えましたか。 ○行動や会話から豆太の性格や気持ちを想像させる。 ○人物像を想像した根拠となる言葉が、文章のどこに書かれているのか確かめさせる。 ☆叙述を基に、豆太の性格や気持ちを想像しながら読んでいる。 【読】(ノート、発言)
ま と め ・ 振 り 返 り	3 今日の学習の振り返りをする。 4 次時の学習について知る。 家庭学習 豆太らしさが伝わるように、「モチモチの木」を音読してくる。	指視点に沿って振り返りをしてください。 ・今日の学習から、豆太らしさが伝わるためにはどこをどのように音読したいか。 ○次時は、豆太の人物像について人物カードにまとめ、音読の工夫を考えることを伝える。